



アクア琵琶
レポート

来館者のみなさまに「おいしい水」について、おたずねしました。

アンケートにご協力いただいた方の約半数が日頃から水道水のおいしさや安全性について「気にしている」と回答され、約3割の方が浄水器を使用する等の工夫をされていました。さらに、水道水をおいしくするためにも琵琶湖の水質低下を防ぐ取り組みが必要と考えるなど、水に対する関心の高いことがわかりました。

おいしい水の条件。

「水道法」の水質基準のひとつに、よりの質の高い水道水を供給するための目標値を定めた「快適水質項目」13項目」があります。いわば、おいしい水の目安です。そのなかでもカルシウムやミネラルは水の味を大きく左右する成分で、多すぎると硬く、少すぎると「味がなく」「味がなく」「味がなく」と「味がなく」味気ない水となります。また、遊離炭酸は水の中の二酸化炭素を指し、ある一定量含まれることにより新鮮でさわやかな味をもたらすといわれています。そして、おいしい水の条件として、とくに注目されるのは有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)の項目です。この数値が大きければ、水の中に有機物が多く溶け込んでいることを示し、原水の汚れを表します。したがって、殺菌に使用する塩素の量も増え、水のおいしさや味に大きな影響を与えることとなります。よりおいしい水道水を飲むためにも、水源となる河川や湖沼の汚れを防ぎ、きれいな水質を保つことが重要なポイントとなります。

淀川の水道用水。

淀川の水は京阪神の人々の貴重な水源であり、その水を水道水として利用している人口は約1100万人にのぼります。枚方市楠葉から大阪市柴島までの区間には多くの取水口が集中し、上水給水区域は神戸市から大阪府南端におよびます。淀川の水利用は、上流から下流にいたるまでの間に河川の水を何度も繰り返し利用することによって大きな特徴としています。このため、再利用のために、さまざまな廃水や各家庭の生活雑排水の汚れをできる限り抑え、水道水を利用する私たち一人ひとりが、河川への思いやりを深めることが、安全でよりおいしい水を確保することにつながります。

快適水質項目(13項目)

	項目	目標値
色	マンガン	0.01mg/ℓ以下
	アルミニウム	0.2 "
におい	残留塩素	1mg/ℓ程度以下
	2-メチルイソボルネオール	粉末活性炭処理 0.00002mg/ℓ以下 粒状活性炭等恒久施設 0.00001mg/ℓ以下
	ジエオスミン	粉末活性炭処理 0.00002mg/ℓ以下 粒状活性炭等恒久施設 0.00001mg/ℓ以下
	臭気強度(TON)	3以下
味覚	遊離炭酸	20mg/ℓ以下
	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	3 "
	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	10mg/ℓ以上100mg/ℓ以下
濁り	蒸発残留物	30mg/ℓ以上200mg/ℓ以下
	濁度	給水栓で1度以下、送配水施設入口で0.1度以下
腐食	ランゲリア指数(腐食性)	-1程度以上とし、極力0に近づける
	pH値	7.5程度

水質基準に関する省令(平成4年12月21日)厚生省令第69号および大阪市水道局発行「大阪市の水づくり」より作成

